

日本堆積学会 2018年秋田大会 プログラム

<日 時> 2018年3月25日(日)～28日(水)

25日(日): ワークショップ(2コース)

26日(月): 個人講演, 総会議事, 懇親会

27日(火): 個人講演, 最優秀口頭・ポスター発表賞授賞式, 堆積学トーク・トーク

28日(水): ポスト巡検「男鹿半島に分布する最上部新生界の地質と秋田の油田」

<会 場> 秋田大学手形キャンパスほか

<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/access/>

3月25日(日) ワークショップ(2コース)

コースA 「コアワークショップ: 椎谷層砂岩貯留層コアの堆積相解析」

国際石油開発帝石株式会社主催, 堆積学会との共催

場所・時間: 国際資源学部2号館B105石油地質学実験室 13:00-17:00

講師: 佐藤隆司氏(国際石油開発帝石)・荒戸裕之氏(秋田大学)・保柳康一氏(信州大学)

コースB 「津波堆積物ワークショップ」

秋田大学地方創生センター, 秋田大学大学院理工学研究科附属地域防災力研究センター共催

場所・時間: 秋田大学地方創生センター1号館2F会議室等 13:00-17:00

講師: 鎌滝孝信氏(秋田大学)

3月28日(水) ポスト巡検

「男鹿半島に分布する最上部新生界の地質と秋田の油田」

集合: 秋田大学正門 7:40 解散: 秋田大学正門 16:00, 秋田駅東口 16:15, 秋田空港 17:00

講師: 山崎 誠氏・千代延俊氏・荒戸裕之氏(秋田大学)

3月26日(月)

会場：一般教育1号館103講義室(ポスター会場)2号館103講義室(口頭発表会場)

建物への入館は08:15から可能です。

9:00-9:05 会長挨拶 高野 修

<口頭発表の部>

【座長：齋藤 有】

- O1 9:05-9:25 白保竿根田原洞穴遺跡の堆積物の特徴
石原与四郎(福岡大)・吉村和久(九州大)・
土肥直美(元琉球大)・
片桐千亜紀(沖縄県立埋蔵文化財センター)
- O2 9:25-9:45 IODP-ICDP第364次研究航海によるチチュルブ・クレーター掘削の成果とク
レーター内部堆積物の再堆積過程
後藤和久・石澤堯史(東北大)・
菅原大助(ふじのくに地球環境史ミュージアム)・
モーガン ジョアンナ(インペリアル・カレッジ・ロンドン)・
グリック ショーン(テキサス大学オースティン校)・
Expedition 364 scientists
- O3 9:45-10:05 北米グリーンリバー湖成層に見られるチャート層の成因と始新世前期“温室
期”の湖生物生産量変動
隈 隆成(名古屋大)・長谷川精(高知大)・
山本鋼志(名古屋大)

休憩(10:05-10:15)

【座長：山田昌樹】

- O4 10:15-10:35 タイ南西部沿岸における2004年インド洋大津波による津波堆積物の保存可
能性
阿部朋弥(産総研)・海津正倫(奈良大)・
Naruekamon Janjirawuttikul(タイ王国土地開発局)
- O5 10:35-10:55 津軽半島、十三湖周辺における津波堆積物
岡田里奈(弘前大)・鎌滝孝信(秋田大)・
梅田浩司(弘前大)

- O6 10:55-11:15 仙台湾南部における 3.11 津波による冲向き土砂移動
吉河秀郎 (清水建設(株)技術研究所)・
佐藤 晃・後藤和久 (東北大)・
菅原大助 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)・
金松敏也・阪口 秀 (JAMSTEC)
- O7 11:15-11:35 ブロック試料を用いた陸上津波堆積物に含まれるマッドクラストの特徴
高清水康博・玉木恵理菜・ト部厚志 (新潟大)
- O8 11:35-11:55 液状化による砂脈の分類と粒径
比後有廉・北沢俊幸 (立正大)

【座長：宇津川喬子】

<ポスター発表ショートトーク： 奇数番号の講演> 11:55-12:34

1 件あたりの講演は 3 分以内とします。

昼休み (12:34-13:30)

<ポスター発表の部> 13:30-14:45

3 月 26 日 (月) 8:30 より掲示できます。3 月 27 日 (火) 17:00 までに撤収をお願いします。

- P1 礫形状の摩耗に伴う変化
宮田雄一郎・廣田毬子 (山口大)
- P3 多摩川中流域における深成岩礫の供給・運搬過程
白井正明・遠藤紗花・宇津川喬子 (首都大)
- P5 混濁流中の泥質礫の起源および分解過程の解明：下部更新統上総層群大田代層の例
福田壮二郎・成瀬 元 (京都大)
- P7 高密度ボーリング調査と微地形から明らかにする歴史津波の挙動と堆積物の特徴
～北海道登別市における 17 世紀津波堆積物～
中西 諒・長谷川大輔・岡村 聡 (道教大)
- P9 津波による海底砂の運搬プロセスに関する実験的研究
鈴木貴大・篠崎鉄哉 (筑波大)・
山口直文 (茨城大)・関口智寛 (筑波大)
- P11 秋田県男鹿市生鼻崎地域に分布する更新統北浦層の堆積相解析
阿部史孝・千代延俊・荒戸裕之 (秋田大)
- P13 新潟県東頸城丘陵北東部における更新世の海水準変動に応答した 2 つのデルタシステム
による堆積盆地の埋積
河西夏美・保柳康一 (信州大)
- P15 埼玉県秩父盆地北縁における中新統の堆積環境解析
吉岡拓実・北沢俊幸 (立正大)

- P17 茨城県霞ヶ浦における堆積速度の相違解決に向けた試案
井内美郎（早稲田大）・天野敦子（産総研）・
木下愛海・宮村笑子（元早稲田大）
- P19 堆積物供給量の違いによる最大海沓濫面の年代差 – 首都圏沖積層の例 –
小松原純子（産総研）・石原与四郎（福岡大）・
中島 礼（産総研）・内田昌男（国環研）
- P21 紀伊半島四万十累帯「サラシ首層」に含まれる砂岩の碎屑性ジルコン U-Pb 年代（予報）
別所孝範（大阪市立大）・
檀原 徹・岩野英樹（京都フィッシュントラック（株））・
平田岳史（東京大）
- P23 気象観測に基づく石筍年縞の形成シミュレーションー秋吉台こうもり穴の例ー
佐々木華（福岡大）・大西由梨（応用地質）・
村上崇史（美祢市立秋吉台科学博物館）・
石原与四郎（福岡大）・吉村和久（九州大）
- P25 後期完新世メコン河デルタはオートジェニックな平衡河川系の実例か
王俊輝（中国石油大）・田村 亨（産総研）・武藤鉄司（長崎大）

<口頭発表の部>

【座長：長谷川精】

- O9 14:45–15:05 遠洋性堆積物の構造解析から分かる堆積性マンガン鉱床の形成過程
浦本豪一郎（高知大）
- O10 15:05–15:25 メタンハイドレートが高濃集するガスチムニーはどのように形成されたか
松本 良・柿崎喜宏・蛭田明宏（明治大）・
山王梨沙・鈴木麻希（東京大）・
沈川洲（台湾大）
- O11 15:25–15:45 北海道日高海岸地域の中中部～上部中新統前縁盆地埋積物の堆積システム
加瀬善洋・川上源太郎（道総研地質研）・
高野 修（石油資源開発）
- O12 15:45–16:05 Thermal history and provenance studies of the Scillato wedge top basin
(central-northern Sicily, Italy) by means of vitrinite reflectance and XRD on clay
minerals
Martizzi Paolo（秋田大）・
Balestra Martina・Corrado S.（ローマトレ大）
- O13 16:05–16:25 秋田堆積盆の発達史と石油の成因
中嶋 健（産総研）

<総会> 16:30–17:30

<懇親会> 17:45–20:00 秋田大学大学会館クレール1階

3月27日(火)

<口頭発表の部>

【座長：小松原純子】

O14 9:00-9:20 モンゴル年縞湖成層に記録される白亜紀中期“超温室期”の太陽活動周期の
気候変動

長谷川精(高知大)・安藤寿男(茨城大)・
勝田長貴(岐阜大)・村木 綏(名古屋大)・
Ichinnorov N. (モンゴル古生物地質研)・
村山雅史(高知大)・山本鋼志(名古屋大)・
太田 亨(早稲田大)・長谷川卓(金沢大)・
山本正伸(北海道大)・長谷部徳子(金沢大)・
Heimhofer U. (ハノーバー大)

O15 9:20-9:40 河川～湖沼成シークェンス層序解釈における生痕化石データの有効性：ユタ州
ユインタ堆積盆に露出する始新統ユインタ層およびドゥシェーンリバー
層の例

佐藤隆司(国際石油開発帝石)・
Marjorie A. Chan・Allan A. Ekdale(ユタ大)

O16 9:40-10:00 鹿児島県喜界島 2017年9月豪雨で新たに出現した知念層相当層とその意義
(予察)

松田博貴(熊本大)・
千代延峻・山崎 誠(秋田大)・
佐々木圭一(金沢学院大)

休憩(10:00-10:10)

【座長：吉河秀郎】

O17 10:10-10:30 河川泥質堆積物のSr-Nd-Pb同位体比と流域地質との関係

齋藤 有(地球研)

O18 10:30-10:50 河岸段丘の形成－立川段丘面の例－

八木下晃司(早稲田大)・小松原純子(産総研)

O19 10:50-11:10 メコンデルタの形態を決める要因は何か

田村 亨(産総研)・齋藤文紀(産総研・島根大)・
Marcello Gugliotta(島根大)・
Nguyen Van Lap・Ta Thi Kim Oanh(ベトナム科学アカデミー)

- O20 11:10-11:30 波浪と海流が影響する砂質陸棚の形成過程：房総半島九十九里浜沖海域
西田尚央（東京学芸大）・
味岡 拓・池原 研・
中島 礼・片山 肇（産総研）
- O21 11:30-11:50 差別浸食によって海岸線と平行に延びた埋没チャネル：房総半島東部沿岸海域の沖積基底
佐藤智之・古山精史朗（産総研）

【座長：佐々木華】

<ポスター発表ショートトーク： 偶数番号の講演> 11:50-12:26

1件あたりの講演は3分以内とします。

昼休み（12:26-13:30）

<ポスター発表の部> 13:30-14:45

- P2 Artificial Neural Networking による Krumbein の円磨度印象図の数値化予測
仁科健二（道総研地質研）
- P4 河川－海浜に堆積する砂礫の運搬作用に伴う形状変化に基づいた『円磨度の飽和過程モデル』の提案
宇津川喬子・白井正明（首都大）
- P6 南相馬市小高区における 3.11 津波堆積物と完新統ボーリングコア中のイベント堆積物の比較研究
内山しおり・角張友律・太田勝一・保柳康一（信州大）
- P8 大型造波水路津波堆積物と現世津波堆積物観察例
岡崎浩子（千葉県立中央博）・吉井 匠（電力中央研究所）・
宮田雄一郎（山口大）
- P10 鬼界カルデラ噴火に伴う津波堆積物と火山噴出物の層序関係
山田昌樹・佐竹健治（東京大）・藤野滋弘（筑波大）
- P12 秋田県五城目町杉沢地域に分布する女川層の岩相解析
－特に微細堆積構造に着目して－
日比康貴・大和寛享・荒戸裕之・千代延俊（秋田大）
- P14 長野市信州新町地域における北部フォッサマグナ新第三系の堆積システムと貝化石の埋積モデル
中島悠介・保柳康一（信州大）
- P16 島根県出雲市に分布する大森層の特徴とその空間変化
松澤ひかり・酒井哲弥（島根大）

- P18 房総半島東部沿岸域 20 万分の 1 海底地質図
古山精史朗・佐藤智之・荒井晃作（産総研）
- P20 風成砂丘から探る超大陸パンゲア時代の気循環：火星やタイタンとの類似性
庄崎弘基・長谷川精（高知大）
- P22 河床縦断形の逆解析を用いた東北日本弧の地殻隆起速度の時空変動復元
中島由以佳・成瀬 元（京都大）
- P24 新しい混濁流数値モデル：駆動層・希薄層構造を考慮した深さ平均モデルの開発
大畑耕治・成瀬 元（京都大）

<口頭発表の部>

【座長：浦本豪一郎】

- O22 14:45-15:05 サージ的混濁流によって形成されるサイクリックステップの特徴
藤田和典・森 勇・横川美和（大阪工業大）・
Roberto Fernandez・Matt Czapiga・John Berens・
Jeffrey Kwang・内藤健介・Gary Parker（イリノイ大）・
泉 典洋（北海道大）・成瀬 元（京都大）
- O23 15:05-15:25 深層学習を用いた堆積プロセスの逆解析フレームワーク
成瀬 元（京都大）・中尾健人（Schlumberger）
- O24 15:25-15:45 沖縄宮古島～西表島前弧域の堆積作用
池原 研（産総研）・金松敏也（JAMSTEC）

休憩（15:45-15:55）

【座長：田村 亨】

- O25 15:55-16:15 陸棚縁辺における堆積シーケンスの階層構造とシーケンス境界の形成時期：ニュージーランド、カンタベリー堆積盆地を例にして
保柳康一・角張友律（信州大）
- O26 16:15-16:35 日本海の堆積物における有機炭素濃度の変動メカニズム
公文富士夫（高知大）
- O27 16:35-16:55 日本周辺前弧・背弧堆積盆の埋積様式の類型化
高野 修（石油資源開発）
- O28 16:55-17:15 茨城県北茨城沖の三次元地震探査に認められる磐城および日立海底スライド～スランプコンプレックスの産状
荒戸裕之（秋田大）

<事務連絡> 17:15-17:25

<最優秀口頭発表賞・最優秀ポスター賞授賞式> 17:25-17:35

<堆積学トーク・トーク> 17:45-19:45

会場：一般教育 2 号館 103 講義室

注意事項

<口頭発表>

*口頭発表は発表 16 分，質疑応答 4 分です。発表時間を厳守して下さい。

*口頭発表は液晶プロジェクターの使用を標準とします。スライドのサイズ設定は 4:3 としてください。講演で使用する PC については，講演者に後日，直接お知らせします。口頭発表される方はファイルの入った CD もしくは USB メモリを持参下さい。持参いただくメディアおよびファイルにつきましては，ウイルス対策ソフトの最新定義で事前にチェックを頂きますようお願い致します。ファイルは遅くとも講演前の休憩時間までに会場の PC に直接コピーして下さい。心配な方はご自分のパソコンを持参下さい。

<ポスター発表>

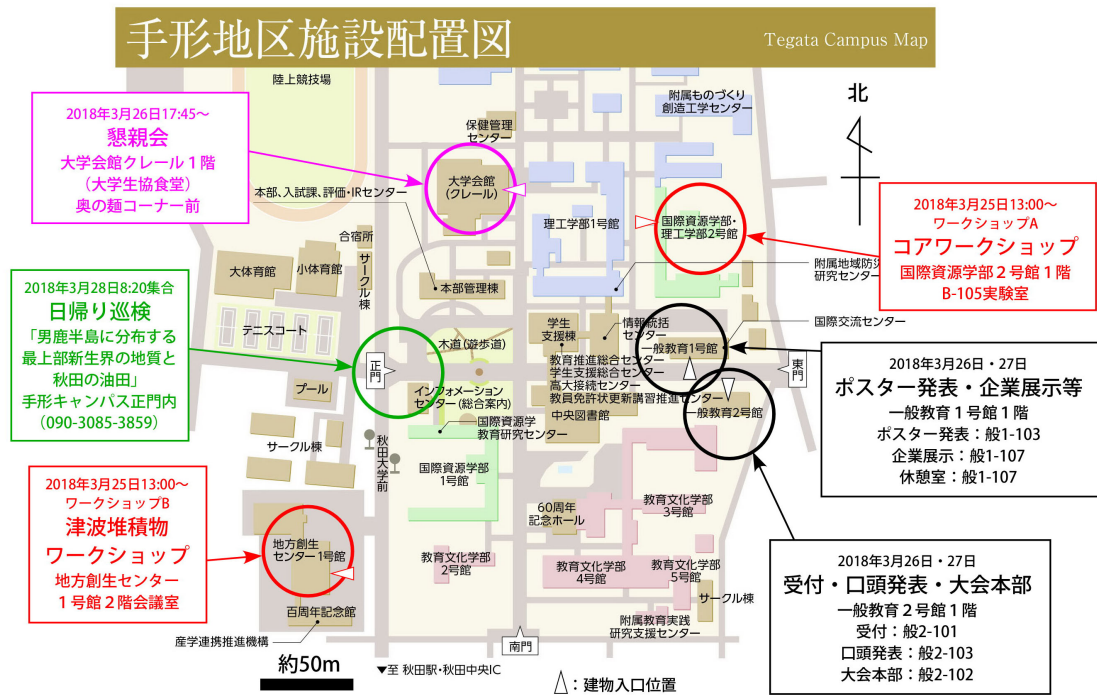
*ポスターは 26 日と 27 日の 2 日間に渡って掲示することができます。ポスター 1 件あたりの展示可能スペースは，講演者に後日，直接お知らせします。画鋏は会場にも用意してあります。ポスターには，必ずポスター番号を記入して下さい。はぎ取り標本など重量物の展示を希望される方は，事前に行事委員会までお知らせください。

*ポスター発表のショートトークは 1 人 3 分以内でお願いします。液晶プロジェクターを使用して発表する場合，使用するスライドはタイトルスライド以外に 2 枚でお願いします。スライドのサイズ設定は 4:3 としてください。なお講演を円滑に進めるために，用意して頂いたスライドはあらかじめこちらで 1 つのファイルにとりまとめます。

<写真・ビデオ撮影の制限>

*本大会における全ての講演の様子や内容について（口頭発表・ポスター発表など），発表者に無断で写真撮影・ビデオ撮影することを禁止します。撮影には発表者の許可が必要です。また，それらを発表者の許可なく SNS 等で配信することを禁止します。

会場案内



日本堆積学会2018年秋田大会 (3月25～28日) 会場のご案内